

鶴友会



去る平成13年11月1日、毎年恒例の鶴友会福岡市役所支部総会を、本校から青木校長先生、今津教頭先生他、同窓会本部から安藤会長他多くの来賓をお迎えし、平和楼本店にて盛大に開催しました。

第1部の総会議事では、平成12年度事業報告、決算報告、監査報告、及び平成13年度事業計画、予算、役員改選を行いました。特に今回の役員改選では、長期にわたる鶴友会の発展に甚大なる貢献をいただいた本村泰之会長をはじめ、井上、権藤副会長、諸岡幹事長、藤野、江本、柴田(淳)常任幹事、及び依、塩津会計監事が退任されました。

また新役員では、林 正治(1回卒)会長をはじめ、江本、今任副会長、田坂(昭)幹事長、上村、武藤、坂田(誠)、藤常任幹事、及び渡邊、柴田(克)会計監事が新たに選任され、新体制のもと決意も新たにスタートしました。

第2部の懇親会では、青木校長先生より本校の近況報告(少し長かったかな。これも熱意の現れでしょう。)(が有り、また安藤同窓会会長より今後の本校への支援について、なかでも特にクラブ活動面では全国に見習い、外国人留学生を採用しては等、力強い挨拶がありました。その後は酒等酌み交わしながら、同窓会会話の定番：今となっては懐かしい恐かった名物先生方々(浅田先生、野田先生、池田先生、足利先生、桃崎先生、龍先生、亀崎先生...)の話など、和気あいあ

鶴友会総会に乾杯



いの中楽しい総会となりました。最後に、昔は長い竹の棒(その後半分、今は無し)です。(を振っておられた今津教頭先生(こめんなさい)の万歳三唱、並びに全員で校歌を合唱し、平成13年度鶴友会総会を閉会しました。

福岡市役所支部 会計監事

土生成孝(19回卒)

つつじ会



久留米つつじ会総会開催

平成13年9月22日(土)久留米グリーンホテルで、午後6時30分より久留米つつじ会の総会が開催されました。今年は第12回の総会になります。

総会の議事が終わったあと、例年のように懇親会になりました。同窓会長あいさつ、学校長あいさつその後乾杯をし、懇談に入りました。

今年も例年のように、グループジャンケ

和気あいあいつつじ会



ンゲームのおみやげを用意し、皆さんに楽しんでいただきました。

久留米市近郊の方、つつじ会総会にぜひご参加下さい。つつじ会の総会は、毎年久留米グリーンホテルで、9月下旬の土曜日に行なわれています。久留米グリーンホテルにお問合せの上、多数ご参加下さい。

(つつじ会幹事長 豊福光明)

硬式野球部OB会

創部50周年記念祝賀会

昭和26年4月に創部されました福岡大学附属大濠高等学校硬式野球部の「硬式野球部創部50周年記念祝賀会」が、平成14年1月2日17時より、ホテルニューオータニ博多にて開催されました。青木学校長を始め、歴代の部長先生・監督・現役野球部員の学校関係者や、山内OB会長を始めとして硬式野球部のOB諸氏、また同窓会からは、安藤同窓会長を始め郡田氏・本村氏・石津氏の同窓会関係者の列席の下、盛大に開催されました。

祝賀会には、昭和56年の甲子園初出場の時のエースで、現在、西武ライオンズ一軍投手コーチの森山良二氏や、平成元年の夏の甲子園ベスト8進出のメンバー等も駆け付けて、花を添えてくれました。

OB諸氏は昔話に大いに花が咲き、「復活、大濠野球部！」の願いを込めて、校歌の大合唱でお開きとなりました。

7度目の甲子園出場、期待しています。

硬式野球部往年の勇姿



●50周年記念OB戦
本校グラウンドにて

●今春より西武ライオンズ一軍ピッチングコーチに就任した森山良二氏の顔も見える。

福岡大学附属大濠高等学校硬式野球部 創部50周年記念祝賀会



●硬式野球部創部
50周年記念祝賀会

同窓会員 各位
特別会員、募集とご協力をお願い!!

「文」武「フ」ランドへの協賛について

福岡大学附属大濠高校同窓会
会長 安藤 文 六

早春の候、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。

早いもので、私が会長に就任し、新執行部が発足してから1年が経過しました。この間、新たな21世紀を迎え、また発足50周年を目前に控えた『大濠同窓会』の活動の意義について、自分なりに考えてみました。

母校大濠は、今や、県内の私立中高の雄として世間に認識されており、他の進学校とは異なって、超然と存在しているのは、『文武両道』という現代では化石化しているとも言える言葉に、未だにこだわり続けている姿勢であり、私も同窓会員の誇りの原点となつているのでございます。

この『文』『武』が微妙なバランスで調和している。これが大濠の特徴であり、どちらかに偏つてしまえば、大濠でなくなると思ふのです。私学の冬の時代とも言われる状況の中で、母校は、その両立に不屈の精神をもって、果敢にチャレンジし、新世紀の名門校に向けての努力に余念がありません。ここに、同窓会としての一つの方向性が見えてきます。母校の教職員、後輩を支援せずして何のための同窓会だろうかと思感するのであります。

現在までの同窓会活動は、母校に対して